

中学生用 夏のおすすめ本 読書ポスター 本をよんで ころろわくわく

『ゴッホはなぜ星月夜のうねる糸杉をえがいたのか』

マイケル・バード／作 (エクスナレッジ)

「4万年のアートの旅にでかけよう！」と銘打って、人類最古の象牙の彫刻から中国の最新のアーティストの作品まで、68のアートが紹介されています。この本の醍醐味は、名だたる芸術家たちが作品を生み出すにいたった理由や作品制作の過程が読み物として楽しめることです。時空を超えてアートが生まれる現場に立ちあう、そんな感覚をぜひ楽しんで！



『あした、弁当を作る。』 ひこ・田中／著（講談社）

「行ってらっしゃい。タツちゃん。」と言いながら、いつものように母親がタツキの背中に軽く触れたとき、タツキはゾクッと寒気がしました。その日から、タツキは母親の作る弁当が急に食べたくなくなって、自分で弁当を作ると宣言します。「これは成長期か反抗期か」「ぼくはどうなってしまったのだろう」タツキの心は揺れ動きます。



『キオクがない!』 いとう みく／作（文研出版）

主人公の孝太郎は、事故にあい、自分に関する記憶がなくなってしまう。目を覚ました彼は、どこかよそそしい家族や自分を避ける弟、視線を逸らすクラスメイトといった周囲の様子から、記憶をなくす前の自分がどんな人間だったのかが気になるようになります。



『月のケーキ』 ジョーン・エイキン／著（東京創元社）

桃にブランディ、クリーム、タツノオトシゴの粉、グリーンガラスツリー・カタツムリをひとつかみ。それらを使って満月の夜に作るケーキには、時計の針を戻す力があり、特別な人間しか作ることも食べることもできないといひます。ある時、祖父が住む気味の悪い村で数カ月過ごすことになったトムは、そのケーキ作りを手伝うことになります。ちょっと不気味なファンタジー短篇集です。



『奇譚ルーム』 はやみねかおる／著（朝日新聞出版）

「ルーム」とは、あるテーマをもった“ルーム”を自由に設置し、ゲストを招待して交流できる最新の SNS です。主人公はある日、招待された「奇譚マニア」のルームに入ってみると、そこは面白い「奇譚」を語れなければ、現実の自分も消されてしまうという恐ろしい“ルーム”だったのです。バーチャル世界のスリル満点生き残りゲームを、SNS を眺めるような感覚で楽しめます。



『死神短歌』 神戸遙真／著（PHP 研究所）

「ボクの仕事は、糸を切ること」死神のウタは、死に直面した人に寄り添い、その魂を現世につなぎとめている未練の糸を断ち切って、魂を送る仕事をしています。仕事が終わると、ウタはさっきまで隣にいたのに今はもういなくなってしまった人のことを思いながら「五七五七七」の三十一文字の言葉を紡いで、短歌を詠むのです。



おうみはちまんしりつとしょかん
近江八幡市立図書館

おうみはちまんしきょういくいいんかいじむきょくしょうがいがくしゅうか
近江八幡市教育委員会事務局生涯学習課

れいわ ねん ねん がつ
令和8年(2026年)7月